

令和5年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

「子どもたちが自分でつかむ自分の未来」の実現—子どもの自己肯定感と自己有用感を高める教育の推進—

【学校 目標】

〇夢を抱き、心豊かに、たくましく生きる子—光り照らす かがやき子—

【現状と課題】

- 〇視点1 児童が主体的・対話的な学習を進めながら、「読み解く力」の育成を図る授業改善に努める。
 〇視点2 認め合い、高めあう学習集団づくりを全ての学級で実現し、児童の自己肯定感と自己有用感を育む。
 〇視点3 全職員で基礎学力向上の取組を進める。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
〇校内研究の重点ポイントとして「聴く力」の向上から「話す力」の向上につなげる。 〇電子黒板、タブレット、デジタル教科書等のICTを効果的に活用し、多感覚による教育の充実を図る。	・本校学校評価教職員自己評価における、「学習に話し合い活動(小集団活動)を取り入れたり、子どもが探究心をもって学習できるよう学習過程や教材の工夫に努めたりした」の項目について80Pを目標数値とする。 ・本校学校評価児童アンケートにおける、「タブレット端末を活用して学習し、ICT活用能力が高まったと感じる。」の項目について、80Pを目標数値とする。		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
〇ペア学習・グループ学習を効果的に仕組み、アクティブラーニングを意識し授業改善に努める。(授業公開・研究授業 年間一人一授業) 〇「話す」「聴く」力の向上を意識し、安心して自分の思いが出せる学習集団の構築に努め、児童の自己有用感と自己肯定感を高める。	・本校学校評価児童アンケートにおける、「友達と話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりできている」の項目について、80Pを目標数値とする。 ・本校学校評価児童アンケートにおける、「先生や友達の話をしっかり聴いている」「授業中に発表や質問ができる」の項目について、80Pを目標数値とする。また、米原市の自己有用感・自己肯定感のアンケートにおいて、1学期の結果から3学期の結果にむけて数値の向上を目指す。		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
〇学校全体で組織的にOJTを推進し、充実させていく。 〇「ホタルンチャレンジ(算数科における基礎学力向上プリント)」を全クラスで実施し、全職員で子どもの学力の把握に努め、改善策を検討し、実施する。	・OJTを計画的に行い、組織力を高めるとともに、教員の資質向上を図る。 ・基礎学力向上に向けた取組を計画(P)・実行(D)・検証(C)・改善(A)のPDCAサイクルにより進化させ、全クラス、全職員で取り組む。		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・4月の職員会議において学校長が教育目標や学校経営等について伝える。
- ・学ぶ力向上推進リーダーが「学ぶ力向上策」について説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について周知する。
- ・学校長の教育目標や学校経営を受けて、校内研究推進委員会を開催し、具体的方策を検討すると共に、全体会において同一歩調で進める体制をつくり、取組事項は学校だよりや学年だより等で、保護者や地域に発信する。
- ・定例職員会議では取組の状況等を共有し、学期末の学校・児童評価で、改善を図りながら進める。
- ・全国学力・学習調査や米原市学力生活調査等の調査における数値や意見等をもとに、改善策について(校内研究部、OJTグループ、教科部会等)でまとめ、夏季研修会で共有し、後半の取組につなげる。

今年度の取組の成果と課題